



『モビリティ・マネジメント教育の視点を取り入れた授業づくり』

【八戸市総合教育センター 主任指導主事 大下 洋一】

八戸市では昭和37年度より、本市の教育課題解決に迫るため、市内の小・中学校の先生方を研究委員に委嘱する「教科等研究委員」制度を設け、教科・領域等に関する実践的研究を行っています。その一環として、令和2年度よりモビリティ・マネジメント教育の視点を取り入れた授業づくりについて小学校の先生方3人とともに研究を進めております。

授業づくりにあたり、八戸市版モビリティ・マネジメント教育を次の「4つの段階」で進めることとしました。(段階1「八戸市の公共交通について知る」、段階2「目的をもって移動ルートを探し、利用する」、段階3「公共交通と自動車のメリット、デメリットを比較する」、段階4「持続可能性(SDGs)の見方・考え方を働かせて交通手段を選択する」)この段階をもとに、研究委員の先生方には児童の実態に応じて授業をしていただきました。

小学校第3学年の実践では「なぜバスが必要なのかを考えよう」という学習課題に対して、買い物や祭りなどの場面を想定して、公共交通を選択する学習活動を行うことで、公共交通の利点に気付くというねらいで授業実践を行いました。小学校第5学年の実践では動画でバスマップの使い方を学び、バスマップの便利さを実感する学習を行いました。授業後には児童のバス利用が増えたとの報告も受けております。小学校第6学年の実践では、総合的な学習の時間にモビリティ・マネジメント教育の視点を取り入れ、八戸市のPR方法を考えさせています。探究活動を通して、児童は八戸市の観光振興には公共交通が欠かせないことや、公共交通が持続可能なまちづくりに関連していることを学んでいます。

今後は、研究で得られたモビリティ・マネジメント教育の視点を取り入れた授業づくりの知見を市内外に広め、児童生徒がバス等に親しみ、公共交通を持続可能性と関連させて捉える力を育成したいと考えております。